

デング熱

●70余年ぶりの流行で注目

昨年夏、突如として流行したデング熱。最後に確認された流行から70年あまり。テレビや新聞などで蚊の駆除を行う報道を目にした方も多いのではないのでしょうか。もともと、熱帯地域の風土病であるデング熱はマラリアなどと同様に、蚊を媒介して拡まりますが現時点ではワクチンが存在しないため、蚊に刺されないよう予防する事が最も大切です。

●なぜ流行したのか？

昨年の流行は、最近の都市の熱帯化や溜まり水の放置などの複合的な要因が重なった結果、熱帯性のウィルスでも生存しやすくなったためといわれています。また、当時多くの患者が代々木公園で行われていたイベントに参加していました。代々木公園は緑地が多く湿気と気温が比較的高いという、熱帯雨林に比較的近い環境であったため蚊が繁殖したとも言われています。一方で、飛行機や船舶などが発達したことにより海外の生物が生きのまま国内に拡がりやすくなったことも一因とされています。

●どんな症状が？

症状としては発熱や頭痛、発疹、目の痛み、筋肉や関節の痛みなどが挙げられます。また重症化すると、ショック症状や内臓からの出血がみられ、ごくまれに命を脅かす事態になります。

●予防と対策は？

まずは蚊が生活できないような環境づくりが大切です。

- 蚊の子供のボウフラが繁殖しないよう雨水などが溜まる箇所をなくす
- 下草を刈って日光を地面まで行き渡らせる
- 公園や水辺では長袖のシャツやズボンなどで皮膚を覆う
- 虫よけスプレーや蚊取り線香を使用する

